

# 受け継ぎたい、まちの賑わいと伝統

日頃、中山間地域で活動している皆さんに活動への思いを聞きました。

## 津田商店街を創る会

津田商店街は、津田地区にある昔ながらの商店街です。平成30年に津田商店街を何とかせんといけんという会長の思いにより「津田商店街を創る会」が発足しました。最近では、新しい店もオープンし、商店街は賑わいを取り戻しています。店主をはじめ、地域の小中学生も一緒になって、商店街だけではなく、地域も盛り上げるため、マルシェや円卓会議の開催など活動をしています。

商店街やマルシェに出店してもらえれば、人も集まり賑やかになります。その相乗効果でまちが元気になればいいと思っています。



津田商店街を創る会  
会長 倉田征士さん

## みんなで商店街を盛り上げていきたい！

### 子どもたちの思い出の地となるように

- 子どものころ、佐伯は楽しかったという思い出が強烈に残っており、今、津田に店を出している。子どもたちが楽しかったねという思い出を持ってくれたら嬉しい。それでまちが元気になったらいいと思います。
- 子どもたちは住んでいる場所が楽しければ、地域への愛が深まると思います。子どもたちが帰りたいと思う地域を作ろう！自分たちも楽しむぞ！という思いで活動しています。

### お店同士で良い循環を

- 自分の店に人が来れば周りに人が行くし、周りに来れば自分の店にも来る。みんなで良い循環が生まれたいと思っています。
- 昔から店を営んでおり、あまり動きはなかったですが、新しい出店者に勢いがあり、良い方向に影響を受けていて、楽しいです。

7月11日のふれあいマルシェは15時から19時まで開催。津田商店街ふれあい駐車場でお待ちしております。



### こんなにいいところはない

店に何回も足を運んでもらうことで、住んでみたい、良いところなんだろうなと感じてもらいたいです。

### 自分たちも楽しみながら

この店があったら暮らしが楽しくなるという目線で出店希望者の相談にのっています。好きな店がどんどん増えていくと楽しいです。

## 吉和こども神楽団

平成11年に当時の吉和神楽団員の子どもを中心に結成され、吉和神楽団員の指導により、伝統芸能の継承、後継者育成を目指しています。

現在は、小学3年生から中学3年生までの計10人で、地域内外のイベントなどでも幅広く活動しています。

伝統芸能は今からどんどん伝えていかなければならない。子どもたちの育成と神楽団の活動が地域の活性化に貢献できればいいと考えています。



吉和神楽団  
団長 能島文範さん

### 教わる側から教える側へ

11歳のときに子ども神楽団で活動を始め、そのまま吉和神楽団に入り、子どもたちの指導もしています。学校では習わない郷土芸能を好きになってもらい、神楽を好きなまま成長してほしいです。



▲指導をする山本正也さん（写真左）



▲地域外から練習に通う笠間さん（写真右）

### 思いを受け継ぐ

お母さんが神楽が好きで、いろいろ見に行ったことをきっかけに、神楽を始めました。練習は大変だけど、仲間と大好きな笛ができて楽しいです！11月の吉和文化祭に向けて頑張っており、吉和こども神楽団だけの味を出していきたいです。



▲弓八幡の演目を指導する山本博之さん（写真左）  
▲練習中の子ども神楽団員の様子

広報はつかいち7月号特集（2,3ページ）に関して感想をお寄せください▶



# 豊かで持続的な中山間地域の実現を目指して

～中山間地域まちづくりビジョンを策定しました～

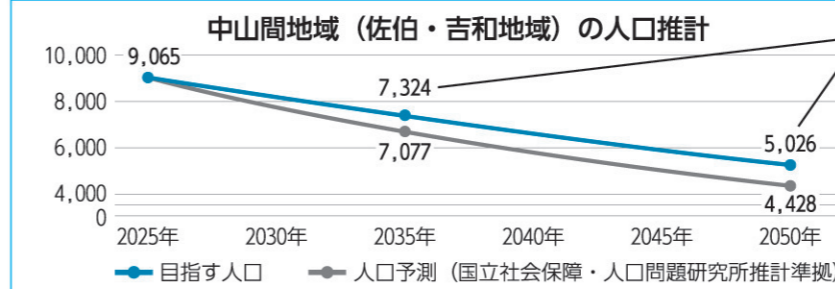
☎ 中山間地域振興室 ☎1110



廿日市市は市域の約70%が中山間地域（佐伯・吉和地域）で、市民の約8%にあたる9,065人が暮らしています。佐伯地域は2000年、吉和地域は1950年をピークに人口減少が続き、2035年には約7,100人、2050年には約4,400人になると見込まれています。

中山間地域に偏在する農地や森林は防災、水源涵養、食料生産など大きな価値を持っていますが、人口減少社会の中、貴重な地域資源を次世代に引き継ぐ担い手の確保も課題となっています。

これらの現状を踏まえつつ、2050年の中長期的な将来を見据えながら、2035年までの10年間の計画を定めることで、市民の主体的な活動を進めるとともに、市が行うべき施策を整理・実施し、だれもが将来にわたって中山間地域の価値を享受できるよう、豊かで持続的な中山間地域を目指す「中山間地域まちづくりビジョン」を策定しました。



毎年10世帯・30人以上の転入を確保することで、中山間地域の人口減少のスピードを緩め、2035年には7,300人以上、2050年には5,000人以上の人口を維持することをビジョンの指標とします。

このまま対策をとらなければここまで人口が減ってしまう！



## まちの将来像

交流人口や関係人口を含め、市民と市民、地域資源も「つながる」ことや、みんなのチャンスなど、さまざまな可能性・選択肢が「ひろがる」こと、そして中山間地域に関わっている人が夢や未来に向けて動き出し、新しいチャレンジなどが「はじまる」ことをイメージし、にぎやかで活気あふれる中山間地域の将来像として定めました。

